

大規模義務教育学校の成果と課題

視察先 東京都八王子市
(八王子市立いずみの森 義務教育学校)
児童生徒数1,411名 学級数43 教職員140名
視察日 令和8年5月21日



1 小諸市の課題・視察目的

(1) 小諸市の現状と課題

- ・ 令和10年4月に3小学校1中学校が統合して義務教育学校が開校する予定。
- ・ 施設一体型義務教育学校を反対する市民の声がある。
- ・ 今後小諸市として小中一貫教育グランドデザイン作成予定。

(2) 視察の目的とねらい

当市において義務教育学校を設置する前に、以下の点について視察することを目的とする。

- ・ 全国の義務教育学校について、小規模の義務教育学校の多い中、大規模義務教育学校のあり方かどうか。
- ・ 大規模義務教育学校の成果と課題はどうか。また、課題に対する対策はどうか。
- ・ 今後、義務教育学校を設置していく方針なのか。それとも、義務教育学校以外の学校形態（小中一貫型小学校・中学校など）に転換する方針はあるのかなど。

2 視察の内容・概要・取組

大規模義務教育学校の成果と課題はどうか

教育目標

創造 ～知の創造～
〈よく考え学び続ける人〉

共生 ～人・自然・文化の共生～
〈思いやりがあり、助け合う人〉

健康 ～健康・鍛錬・耐性～
〈健康でたくましい人〉

地域の教育力との融合
～地域とともにある学校の実現～

- ☐ 地域との連携・協力
- ☐ コミュニティ・スクールとして
- ☐ 複合施設の効果的活用

令和8年度 地域運営学校 八王子市立いずみの森義務教育学校 学校経営計画（概要版）

八王子ブランドメッセージ

『あなたのみちを、あるけるまち 八王子』

法令・学習指導要領

八王子市教育委員会 教育目標

八王子市の目指す教育の姿

- 1 はちおうじっ子の「生きる力」の育成
- 2 学校・家庭・地域の連携・協働による教育力の向上
- 3 あらゆる人が学びあう生涯学習の充実

八王子市の施策展開の方向

- 1 確かな学力を育む教育の推進
- 2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
- 3 児童・生徒に応じた支援の充実
- 4 みらいを切り拓く力を育む教育の推進
- 5 地域とともにある学校づくり
- 6 子どもの学びを支える教育環境の充実

小中一体 今年度目標と重点取組(令和8年度)

1 豊かな人間性と社会性の育成

(指標) ①80% ②80% ③85% ④85%

(重点1) 日々の学校生活での自治的活動で育てる

(重点2) 地域から学び、地域の活動への参加で育てる

2 学力の向上

(指標)

①学力調査正答率 国80% 数70% ②学力調査目標値以上85%

③話し合い態度80% ④話し合い実施80%

(重点1) 思考力・判断力・表現力等を高める授業を行う

(重点2) 社会や生活につながる学びを創造する

3 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実

(指標)

①②児童・生徒90%、保護者 80% ③S生徒90%、保護者85%

(重点1) 相談機会の多様化を進める

(重点2) 体験的な活動を児童・生徒のキャリア形成につなげる

各期の習得目標の着実な定着と義務教育9年間で
切れ目なくつなぐ教育活動の充実

学校施設



普通教室

前開談程(1~6年生)は、教室と下との間仕切りが解放でき、教室前の廊下を広い多目的スペースとして使用できるようになっています。後期課程(7~9年生)は、壁面で仕切り、外部からの音が入りにくくなっています。全ての教室の思板には、スライドレールによってプロジェクターが可動式に設置されています。



中庭

特別支援学級(7組)と低学年児童が休み時間に遊びを通して交流しています。また低学年体育科の運動遊びを実施するなど施設を有効活用しています。



交流ホール

4つの交流ホールは、間仕切りを移動させることで、学年集会やPTA総会等、150名を超える集会等も開催することができます。(3F)



地域コミュニティスペース

地域住民が利用できる公共スペースで学校玄関を使用せず、迫接入空することができます。トイレや給湯室も完備しています。(1F)



大・小体育館

大体育館は、約1200㎡(1周約140m)、小体育館は、約430㎡(1周約60m)のフロアを要し、体目授業や部活熱、地域イベントなど幅広く活用しています。冷暖前も完備しています。

屋上プール・運動場

1年生から9年生の水泳指導ができるよう、水深の調整が可能な可動床を設置しています。また、長い期間利用できるように、室温・水温を維持・調整できる可動早機を設置しています。早上にプールを設置することで敷地面積を極力確保しています。さらに、オフ期間は、可動床を最大限上昇させ、人工芝を敷いて屋内運動場として使用しています。



つながる一む

登校支援が必要な児童・生徒が安心して登校することを目的に設置し、一定のルールを設けて一人一人に応じた学習環境を提供しています。(2F)



いずみのほっとルーム

公立学校共済組合の支援を受け、全国で第1号として教職員の健康維持や回復等を目的に設置した部屋です。(2F)



ビオトープ

学校南側に隣接する六本杉公園の泉から地下水を引いて、ピオトープと田んぼを設置し、自然体験活動を実施しています。

学習の基盤となる9年間の系統的・継続的な指導

- ・9年間の学びの系統性・連続性を意識した授業を展開しています。
- ・校舎一体型を生かし、全教職員で緊密な連携を図っています。
- ・異学年交流を通して助け合い、協力、思いやりの気持ちを育成しています。
- ・9年間の連続性をもった授業規律への取組を行っています。

			I 期（1～4年）	II 期（5～7年）	III 期（8・9年）
学校教育目標	創造	学習、授業	時間を守って行動する。	「授業中と休み時間のけじめをつける。	時間を意識し自ら行動する。
			他者の話を最後まで聞いている。	友達の話聞き、意見を言う。	相手の意見を尊重しながら自「分の意見を言う。
			学習に必要な持ち物を準備する。	忘れ物、持ち物を自分で管理する。	持ち物や提出物、期限の管理をする。
			服装や身なりを整えている。	清潔で整った服装を保っている。	状況にあった服装を選択する。
			正しい姿勢で椅子に座っている。	姿勢に気を付けて授業に臨んでいる。	良い姿勢を心がけている。
	共生	思いやり・礼儀	挨拶やお礼を言う。	挨拶やお礼を言うことを推進する。	時と場に応じた気持ちのよい挨拶やお礼を言う。
			物を大切にする。	物を大切にする。	物を大切にする。
			友達を大切にし、協力する。	友達に対して思いやりをもって行動する。	自己、他者を理解し、違いを認め、互いを尊重する。
			正しい言葉遣いを覚え、呼びかけや問いかけに対して返事をする。	丁寧な言葉遣いや礼儀正しい行動をする。	状況に応じて正しい言葉遣いや礼儀正しい行動ができる。
	健康	心身の健康	規則正しい生活をする。	基本的な生活習慣の意味を理解し、規則正しく生活する。	基本的な生活習慣を自ら意識して過ごす。
			衛生面に気を付けて過ごす。	衛生面への知識を身に付け気を付けて過ごす。	健康面について自ら意識をもって過ごす。
			授業や休み時間を通して、身体を動かすことの楽しさや大切さを知る。	授業や行事、部活動で身体を動かしながら安全面への意識も高める。	授業や行事、部活動で身体を動かしながら安全面への意識も高める。
			自分の気持ちや状況を説明する。	気持ちをコントロールし、「困ったときには大人に相談する。	困ったときに相談しながら、気持ちを安定して過ごす。

特別支援教室

校内支援

特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、校内委員会を設置し、以下の内容について組織的な支援体制がとれるように進めています。

- ・特別な支援を必要とする児童・生徒の実態を把握する。
- ・児童・生徒の指導や対応の工夫を検討し、支援する。
- ・必要に応じて、家庭や外部専門機関との連携を図る。
- ・必要に応じて研修を企画する。

各ブロックにコーディネーターを配置し、各期の校内委員会で定例の情報共有を実施しています。その上で、全体支援会議で取りまとめる形をとり、切れ目のない、児童・生徒一人一人に届く支援を実現しています。必要に応じて、特別支援学校のセンター的機能の活用について、コーディネーターが連絡調整を進めています。

<全体支援会議>

コーディネーターⅠ
<第Ⅰ期校内委員会>

コーディネーターⅡ
<第Ⅱ期校内委員会>

コーディネーターⅢ
<第Ⅲ期校内委員会>

特別支援教室(ほがらか・フレンズ)

通常学級での学習に概ね参加でき、一部特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、週1回程度、課題や障害の特性に応じた特別な指導を行う教室です。具体的に対象となる児童・生徒の次のような特性に対して支援を行います。

- ・生活面「コミュニケーションがうまくとれていない」「時間や持ち物の管理が苦手」「こだわりが強い」「状況に合わせた言動が苦手」「落ち着きがない」「気持ちのコントロールが苦手」など
- ・学習面「学習が積み上がらない」「学習方法がわからない」「読む・書く・話す・聞くなどの活動で著しい苦手さが見られる」など



特別支援学級

きこえとことばの教室



特別支援教室

相談室

3 参考となった事項

- (1) 義務教育学校は既存の小学校と中学校を合わせた概念ではない。義務教育学校は全く別のもので、これが職員に浸透するとうまく動いていく。
- (2) 小学生との交流が日常的にあることで、上学年としての自覚や自尊感情が高まる。
- (3) 体育館は大小と2つ整備され、屋上にプールと運動場が設置されている。
- (4) 小中一貫教育による学力の向上や精神的な安定感といったメリットがある反面、学校運営や施設管理においては異なる年齢層が混在する特有の難しさも存在していた。
- (5) 学力の安定向上＝小中接続によるつまずきの解消が進み、基礎学力の底上げが見られる。
- (6) ICTが充実していて、全普通教室には電子黒板があり、黒板の色も児童生徒に見えやすい色になっている。教師や児童生徒のタブレットの共有が容易である。
- (7) 不登校に関して人間関係の固定化を防ぐために毎年クラス替えをし、担任が変わることは特に注目すべき。
- (8) 児童・生徒数の規模が大きいとの課題では、全校で1,400人以上の大規模校となるため、集団生活に馴染みにくい児童へのきめ細やかなサポート体制がより重要になる。

4 小諸市への提案

- (1) 八王子市も中学校区を基本単位としていた。再編により学校の適正規模化を進めていたので、本市も適正規模の学校設置を目指すべきである。
- (2) 5学年生から教科担任制を導入し、教員の専門性を活かした授業の質の向上を図ることで効果に繋がっていた。

当市も教科担任制を何学年から導入するのかを検討する必要がある。

- (3) 改めて義務教育学校について理解を進めるうえで、市民に理解を得やすくわかりやすい説明をすることが必要である。
- (4) 大規模化に伴うSC・SSWが複数配置されていた。本市も参考とし小人数教育・個別最適化の徹底をすべきである。
- (5) 9年間の系統的・継続的な学習基盤となる指導、9年間の系統性を重視した校内研究、生徒指導も9年間の連続性をもった教育相談、問題行動への取組、1～9年生までの給食・食育指導、保健指導、9年間を見通した系統性・連続性を大切にしたキャリア教育等、ありとあらゆることで9年間を見通していく必要がある。
- (6) 異学年交流を今から随時仕組んでいき、教職員の小中連携の取組を早期に開始すべきである。
- (7) 全教室には電子黒板の導入をすべきである。



大規模義務教育学校の成果と課題

視察先 東京都品川区
(品川区立品川学園
児童生徒数1,134名 学級数40 教職員171名)
視察日 令和8年5月22日



1 小諸市の課題・視察目的

(1) 小諸市の現状と課題

- ・ 令和10年4月に3小学校1中学校が統合して義務教育学校が開校する予定
- ・ 施設一体型義務教育学校を反対する市民の声がある
- ・ 今後小諸市として小中一貫教育グランドデザイン作成予定

(2) 視察の目的とねらい

- ・ 全国の義務教育学校について、小規模の義務教育学校が多い中、大規模義務教育学校のあり方かどうか。
- ・ 大規模義務教育学校の成果と課題はどうか。また、課題に対する対策は。
- ・ 品川区として、今後、義務教育学校を設置していく方針なのか。それとも、義務教育学校以外の学校形態（小中一貫型小学校・中学校など）に転換する方針はあるのか。
- ・ 大規模義務教育学校のカリキュラム・マネジメントについて
- ・ 学校選択制について

2 視察の内容・概要・取組

品川区における小中一貫教育

3校種体制における学校教育の推進

小学校・中学校・義務教育学校

現在、小学校、中学校、義務教育学校の3つの校種を設置しています。



小学校

1～6年生が在籍します。
区内に31校の区立小学校があります。



中学校

7～9年生が在籍します。
区内に9校の区立中学校があります。



義務教育学校

1～9年生が在籍します。第1学年～第6学年を前期課程、第7学年～第9学年を後期課程と言います。区内に6校の区立義務教育学校があります。

一貫教育の連携グループの設定

東海中 城南小 浅間台小 城南第二小	大崎中 三木小 芳水小	浜川中 鮫浜小 立会小 浜川小	鈴ヶ森中 鈴ヶ森小
富士見台中 伊藤小 上神明小	荏原第一中 後地小 小山台小 第四日野小	荏原第五中 源氏前小 旗台小 清水台小	荏原第六中 小山小 第二延山小
戸越台中 京陽小 宮前小	日野学園(後期課程) 第一日野小 前期課程 第三日野小	伊藤学園(後期課程) 大井第一小 前期課程 山中小	八潮学園(後期課程) 前期課程
荏原平塚学園(後期課程) 中延小 前期課程 延山小	品川学園(後期課程) 台場小 前期課程 御殿山小	豊葉の杜学園(後期課程) 大原小 前期課程 戸越小	赤字 … 小学校 緑色 … 中学校 青色 … 義務教育学校

<学校選択制>

通学区域外の学校へ入学を希望される場合は、新入学時に限り、希望する学校を選択し、申請することができる。その申請を受けて、受入枠を超えた場合は抽選を行った上、就学する学校の指定を行う。

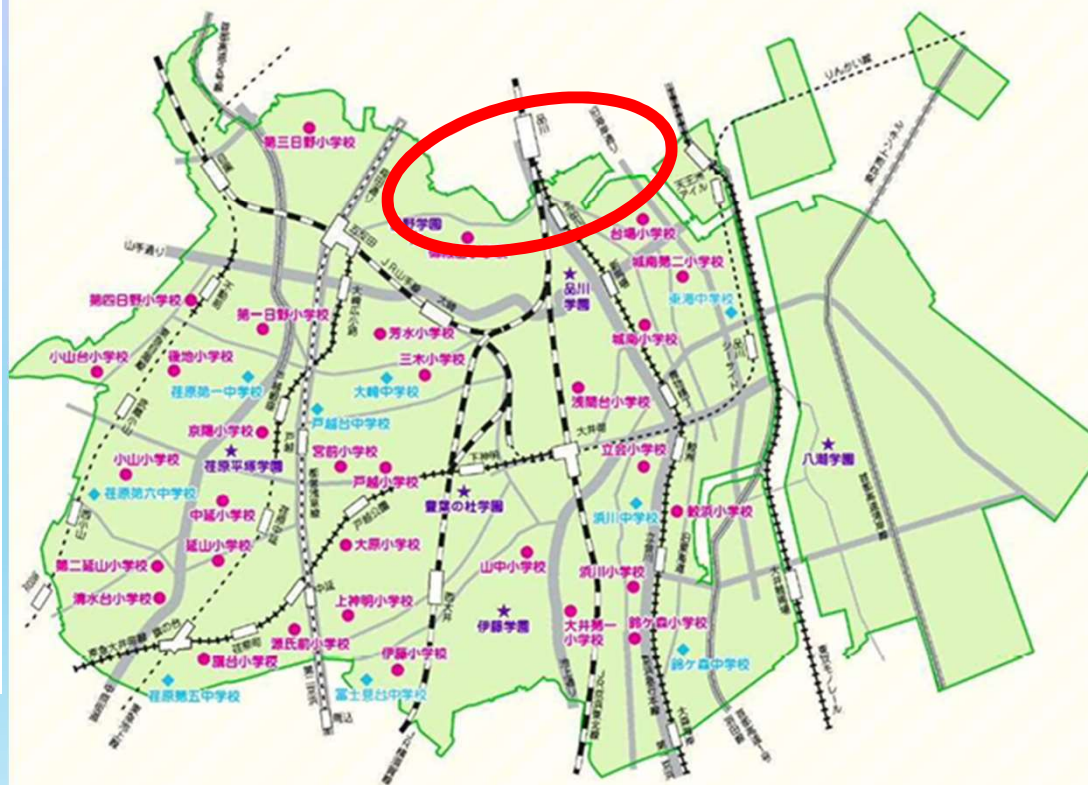
品川区立学校(46校)

地図中の○は品川学園の連携グループ

● 小学校：31校

◆ 中学校：9校

★ 義務教育学校：6校



9年間の一貫したカリキュラム 品川区立学校教育要領

義務教育9年間を通して、より充実した学びを得られるよう、各教科の系統性を明確に示した、「品川区立学校教育要領」を作成しています。また、1年生からの「英語科」や、「市民科」など、品川独自のカリキュラムを定めています。

品川教育の方向性を踏まえた重点

「品川区立学校教育要領」では、重点として次の4点を示しています。

「知・徳・体」を
バランスよく
兼ね備えること

困難に負けず
生き抜く力をもつこと

伝統と文化を
尊重するとともに
国際的な視野をもつこと

地域に愛着をもち、
地域の一員として
社会に貢献すること

次代を力強く生きる児童・生徒の育成

義務教育学校の
メリット

一つの学校として9年間を生かすカリキュラム開発
・1から9のつながり、4-5のまとまりを活かす指導サイクル

- ・下級生は成長の証、上級生は未来の憧れ
- ・大切なことを9年間で繰り返し指導できる
- ・日常的に9年間を見通した指導ができる
- ・567年の継続的な教育改善を推進できる

品川学園グランドデザイン



令和8年度 2026 品川区立品川学園 グランドデザイン

R8.4.16版

UCA（変動・不確実・複雑・曖昧）時代・成熟社会・Society5.0

【2030 中長期的目標】義務教育学校としての役割 R7.4.1 改訂

自他のウェルビーイングの向上を図り、よりよく社会を築き、支える力と資質・能力を育む

幸せの4つの因子「やってみよう」「ありがとう」「関心かなで」「ありのまま」

Agency & Competency

志と忍耐
校是
承前啓後

- <児童・生徒の現状>
- 人なつこく、仲間を思う意識が高い
 - やるときはやれる力を持っている
 - 規範意識の判断や慎重な行動に課題がある
 - 自らの考えを表現する力を伸ばしつつある
 - 家庭学習の定着にばらつきがある
 - 自己調整力・自己指導力を伸ばしつつある

学ぶ力

（学力の向上）主体的・対話的

学び続けるための「基礎力」

「思考力」「実践力」の向上を支援する

- 発達ステップを着実に進む学びを生む指導と、系統性を持った教材、評価方法の開発を行う
- 学び合いや問題解決学習を活用して思考を深め、常に学びに向かう主体性が高まる学習を推進する

- <地域の特質>
- 歴史と伝統があり、進取の風情を持つ街
 - 学校への愛着があり、協力的である
 - 継続して子供、学校を支えてきている
 - 地域行事への子供の参加が期待されている

<一貫教育の活用>

- 9年間で自分の過去・現在・未来を確認できる「下級生は成長の証し、上級生は未来の憧れ」
- 大切なことを9年間で繰り返し指導できる
- 日常的に9年間を見通した指導ができる「成長をみつめ、今を大切に、将来に向かう」
- 567年の継続的な教育改善を推進できる

豊かな心

（豊かな人間性・社会性の育成）寛容

認め合う人権感覚、人権意識の向上を支援する

- 自他の違いを認め、仲間として生きる態度を養う行事や縦割り班活動、自治的活動を行う
- 市民性を高める9年間の連続した指導で将来設計の基本を身につける指導を行う

笑顔

健やかな体

（体力の向上 健康の保持・増進）持続可能

自分の心身の健康を自分で守る態度の向上を支援する

- 基礎体力を向上させ、運動に親しむ態度を養う機会を定期的・日常的に設定する
- 年間を通じ、体育的・保健的行事を効果的に結びつけるカリキュラムを開発する

<8年度経営方針
7つの重点推進>

- ウェルビーイングな義務教育学校づくりを、チーム品川で！
- ① WB経営の推進
 - ② WB教育の推進
 - ③ DE&Iの推進
多様性の包摂
人権尊重教育
 - ④ レジリエンス育成推進
 - ⑤ 個別最適・協働的な学びの環境づくり推進
 - ⑥ AAR（見直し・実践・振り返り）プロセスの推進
 - ⑦ ストレngthス・アップローチ（好きを得意に・強みを生かす）の推進

【ブロックごとの指導目標】

【児童課程】1～4年

1234年ブロック 礎
基礎基本の習得・定着

【生徒課程】5～9年

567年ブロック 要
基礎基本の活用・展開

89年ブロック 進
個性・能力の伸長

保幼小連携

上級学校
社会へ

習年 見年 伸年 挑年 見知年 まや年 作年 超年 渡残年
う せる ばす るる るる るる るる るる るる るる

地域と共にある学校づくり 品川コミュニティ・スクール



・地域とともにある学校づくり…品川コミュニティ・スクールでは、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動の充実と地域の人材の有効活用や地域の教育力の活性化を図っている。（チーム品川）

品川区のウェルビーイング



<ビジョン>
「子どもたちの笑顔でつながる共生社会」
～みんなのウェルビーイングを目指して～
<品川区が目指す教育>
・個人と社会のウェルビーイングを実現する
ための子どもの資質・能力の育成

ウェルビーイング カード

自分
→みんな
→社会
→地球

<8年度経営方針 7つの重点推進>

ウェルビーイングな義務教育学校づくりを、
チーム品学で！

- ① WB経営の推進
- ② WB教育の推進
- ③ DE & I の推進
多様性の包摂
人権尊重教育
- ④ レジリエンス育成
推進
- ⑤ 個別最適・協働的な
学びの環境づくり
推進
- ⑥ AAR（見通し・実
践・振り返り）プロ
セスの推進
- ⑦ ストレngthス・アプ
ローチ（好きを得意
に・強みを生かす）
の推進

3 参考となった事項

- (1) 校長 1 名、副校長3名、主幹教諭5名、スクールカウンセラーが毎日常駐する職員体制で学校経営を行っている。
- (2) 品川区は学校選択制を実施している。小学校、中学校、義務教育学校を選択できるが、義務教育学校である品川学園を選択する家庭は多い。（人数の増加が課題）今後2クラス増える予定で、パソコン教室等を普通教室として使えるように整備中。定員より多い場合は抽選になる。また6年卒業時に品川学園から他の中学校へ、または他の小学校から品川学園に転出転入も可能。
- (3) 品川区は義務教育学校が6校あるので、今後義務教育学校会議を行っていく予定。
- (4) 品川区で義務教育学校をやめる方向はない。義務教育学校のメリット作っている。3年、6年間の教育で語れないものが見えてくる。
- (5) 義務教育学校であることにより、9年間を通じた教育の連続や教職員・児童生徒間の一体感、教育課程の特色など多くのメリットが生まれてる。一方で、運営上の複雑化や教員負担増などデメリットも存在していた。回答調査によると、特に教職員の意識改革や連携体制が最大の利点と感じられており、制度を有効活用することで教育効果が期待されている。



4 小諸市への提案

- (1) 義務教育学校について理解を進めるうえで、市民に理解を得やすくわかりやすい説明をすることが必要である。そのためにも先進校である品川学園における、メリットやデメリットの詳細を伝え、芦原新校における義務教育学校について改めて再認識して頂くことを進める必要がある。
- (2) 5年生からの教科担任制導入で、専門的な知識を持つ教員による授業が受けられる。小諸市の義務教育学校も5年生から50分授業の検討を。
- (3) クラス替えを毎年実施し、生徒間の交流が幅広くなり人間関係が固定化されない。担任も毎年変わる。小諸市も状況に応じて取り入れていくべきか。
- (4) 教員文化の違いから、小中合同研修の義務化、人事交流（兼務・短期移動）の導入。教職員研修を事前に行い、職員間での意見交換が重要と考える。教員のチームワークが重要。校務分掌の明確化をしそれぞれを繋ぐリーダーを作るとよい。品川学園の副校長、主幹教諭、主任教諭の役割。
- (5) 4年生終了時に「引継ぎ式」6年生終了時に「前期課程修了式」を位置付けている。このような節の明確化は必要である。
- (6) 保健室1室でも成り立つが、養護教諭間（3人）の連携と児童生徒の個別の相談についてはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門的知識のある方を配置してほしい。
- (7) 不登校支援は区として「不登校巡回教室」「校内別室指導支援員配置」教育支援センター/オンライン教育支援センター」等があり“無理に学校に来なくていい”という考え方。様々な居場所の確保が必要である。